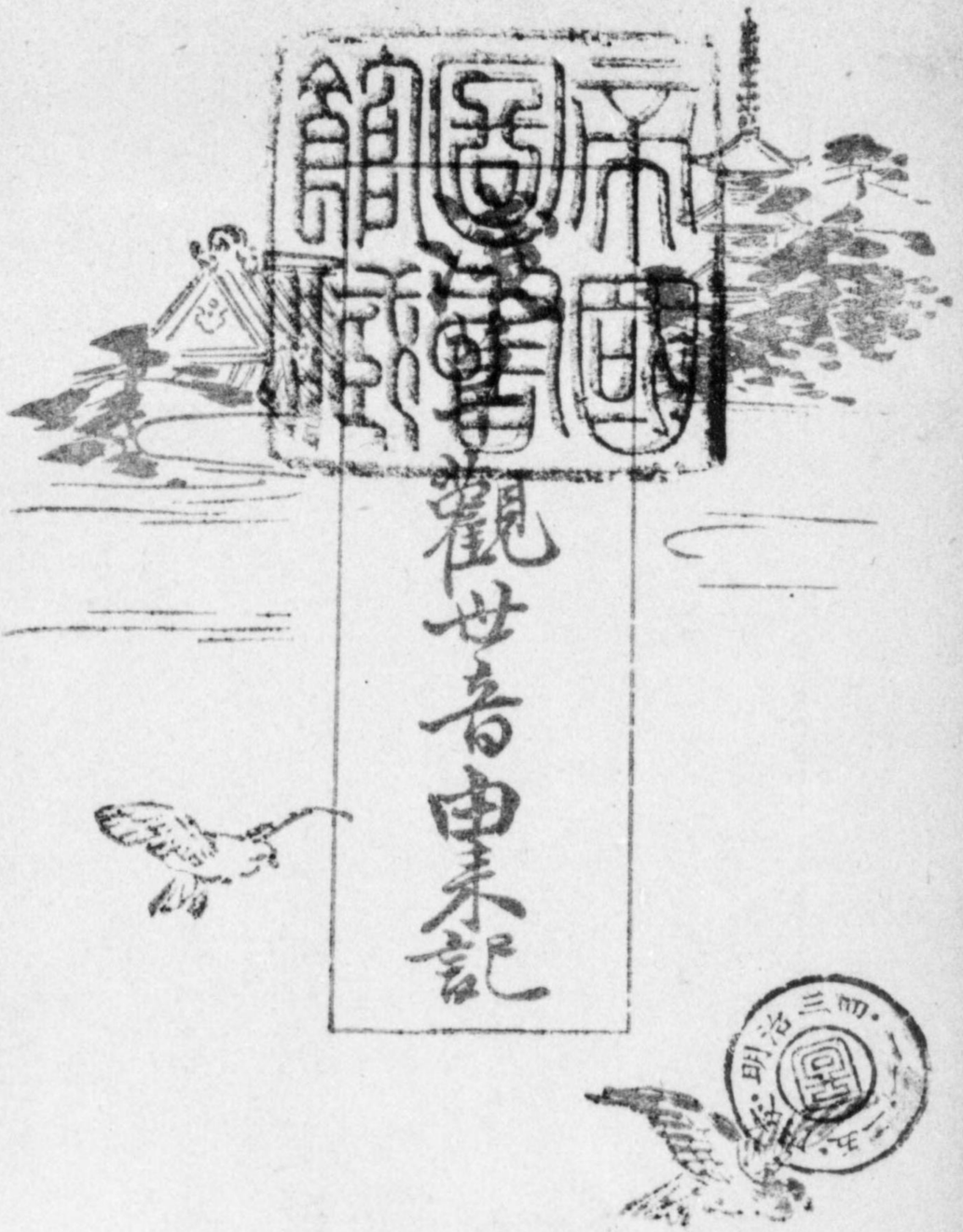
特18
482



IMPERIAL LIBRARY

淺草寺舊雷門之眞景

緒言

弘誓は潮汐の海よりも深く、慈悲は崑崙の岫よりも高き觀世音の洪德は人口にも膾炙し稗史にも戴せたれば今更に言はず、本書は觀世音由來記として地内の舊事をも探り今人の未だ曾て聞かざる事實を蒐めたり左れば世間普通の靈驗記等に比すれば彼は素此は艶にして大に其趣きを異にす

辛丑初冬

編者識

金龍山淺草寺觀世音御由來記

千古の名跡無二の梵刹たる金龍山淺草寺の觀音堂は寛永十九年二月回祿の後ち慶安三年六月三代將軍家光公の建立にして衆俗渇仰の佛閣と爲り二百餘年の今日に至るまで伽藍連綿たり而して本尊大悲の觀世音は大化元年勝海上人の勸請にして其緣起を尋ぬれば人皇三十四代推古天皇の御宇土師臣中知と云ふ者故あつて流浪し從者檜熊濱成同武成等と共に武藏國淺草の邊りに住みて漁業を爲し主徒此處に年を送るうち三十六年三月十八日宮戸川に船を出し打つたる網に光を放ちて觀音の出現ありければ主徒奇異の思ひを爲し家に歸りて人々にありし次第を語りける、ろれより里人等打集ひて藜の柱に草を結ひ假屋を造りて此處に安置し藜堂の觀音と崇めけるとかや、抑々金龍山淺草寺は勝海上人の開基にして藜堂の觀音を勸請せしは大化元年なりとぞ是より後ち天慶五年安房の國主平公雅崇信

あつて本堂は更あり寶塔鐘樓々門を建立す、承暦三年十二月回祿の後ち六十餘年を經て仁安三年四月用舜法師の再建あり、治承四年十月源頼朝公平家追討の祈願にて田園を寄附せらる、正應二年十月僧大輔聖諸國に勸進して堂宇の修覆あり、建武十年足利尊氏田園を寄附す、天文四年八月回祿の後ち北條氏綱再建あつて忠善上人を別當職に請したりとあり、天正十八年八月東照公關東入國の後ち寺領五百石を賜はり寛永十九年回祿の後ち家光公再建ありて東都第一の靈場となりたり云々と見ゆ、爰に觀音堂にて年中執行せる法會の次第を記さん此日參詣する者は無量の罪を滅し惡事災難を免るゝとなり

一月

一日　天下泰平の祈禱

三日　元三會、唄散華

五日　牛王加持

六日　和光會

十二日より十八日迄　溫座秘法供陀羅尼

十四日　開山會戸曼供

廿二日　觀音講法華三昧

二月

三日　節分會、般若心經

十五日　涅槃會

三月

十四日　十萬人曼荼羅供養

四月

八日　佛生會

十四日　十萬講法華三昧

十七日　報恩會修法

五月

十二日　大般若經轉讀

十七日　法華三昧

六月

三日　山家會法華八講

三十日　花講法華三昧

七月

十二日　施餓鬼會

八月

廿六日　誓戒會法華三昧

九月

十二日　大般若經轉讀

十月

十七日　十夜法華三昧

十一月

十三日　施餓鬼會

廿三日　天台會法華八講

十二月

八日　法華三昧

三十一日　修正會

但し明年一月六日迄一週間修行、此外春秋の彼岸中日に放生會あり

右法會の中温座秘法は天下泰平國家安全祈禱にて列座の僧侶一名交る〳〵經壇に上りて秘法を修行し大日眞言、佛眼眞言、無量壽兒、本尊眞言、千手眞言、馬頭眞言、三都総咒、諸天眞言、一字金輪咒、奉唱大悲咒等の眞言を一万六千八百遍つゝを唱ふ、節分會は般若心經の讀誦を畢て内陣に煮豆を打ち節分祈禱の守札を堂内に散らして參詣人に與ふ、華講は御秡の神事に同じ當日參詣の男女夏菊の花を供す、修正會は讀經唄散華あり畢て一人の僧は法衣の儘白布にて鉢卷を爲し布の兩端を立て角の如くに裝ひ鬼の體にて内陣より飛出すを一人の僧竹杖を以て是れを追ふ鬼は廻廊を三度巡りて乾の方に在る藥師堂に入る昔日は鬼の假面を用ひしが今は廢めたり、本堂煤拂例年十二月十二日午後四時仁王門を閉ぢて煤を拂ひ夜に入て開張あり當夜講中の外參詣を許さず

功德日は俗に四萬六千日と云ふ例年七月十日あり此日參詣すれば四萬六千日の日數に充ると云ひ傳へ晝夜參詣人多し此外功德日は毎月あり講中の外知る者少なきにや七月十日に比して參詣人十分の一あり毎月功德日は左の如し

一月一日參詣すれば百日の數に充たる以下之れに倣ふ

二月廿八日　百日

三月四日　九十日

四月十八日　五十日

五月十八日　百日

六月十八日　五十日
八月廿四日　四千日
九月廿　日　六千日
十月十九日　千　日
十一月十七日　六千〇六十日
十二月十九日　四千六百日

講中は御膳講、東高盛講、西高盛講、永代高盛講、元御茶湯講、永代御茶湯講、中御茶湯講、御菓子講、常香盤講、燈明運、蠟燭講、御札講、御疊講、造花講、般若講、睦講、繁榮講、眞榮講、臨時講、御手元講等の二十講あり孰れも頭取世話人等ありて名稱の如く御膳講高盛講は年中の供膳を受持ち御茶湯講御菓子講は茶菓を供するの類にて其他燈明蠟燭御札疊替まで講中の負擔にて睦、繁榮、眞榮、臨時、御手元等の講中は年中の法會等に就てそれ〳〵言捨の次第もあるべし

淺草寺の觀世音は靈驗殊に著しく願ふて叶はすと云ふとなく左れば大江戸の時代毎月緣日には柳營の仕女も來り

諸侯の局も來たり武家は境内に馬を繫さて武運長久を祈り力士俳優妓女の輩袖ふりはへて愛顧を求めんとを願ひ市俗の男女は老幼打雜りて福德圓滿を禱り開帳を願ふ者御影を受くる者開運の守札を受くる者護摩を焚く者交る〳〵堂内に充ち扨は願望百日と稱して來り詣でしも何れか靈驗の著しきに依れるならずや、堂内厨子の内輝きて尊く金色の花瓶時の草花美しく百燈供膳數を並べ衆僧法衣を連ねて法樂千部の續經最と難有思はれける扨緣日の收入は四季の別ちなく賽錢は百兩に上り御影の初穗は護摩の料と併て二百兩以上なりしと云ふ是れ維新前緣日の景況にて當時本山の生活裕なりしが維新後寺領は諭旨奉還となり年々數千圓の收入ある境内は公園に編入せられて今は本山の經濟困難なりとぞ

、、、、、、
觀世音の像　は一寸八分なりと世人の口碑に傳へられしも古來より秘佛にして信し難し開帳佛と稱する御前立の

像は一尺八寸あり其前後に安置されたる諸佛は梵天帝釋、四天王、不動明王愛染明王、三十三身佛なりまた堂内に在る神佛は三寶荒神、毘沙門天、大黒天、辨財天、藥師如來、虛空地藏、千體地藏、子育地藏、文殊尊、神農、賓頭盧等なり

、、、、、、觀音堂の額は明人徐紹勳の筆なりまた堂内天井に畫ける雲龍、鳳凰の圖は狩野永眞、天人の圖は狩野洞春二氏の筆なり

、、、、、、名畫の扁額繫馬圖（所提の筆）賴政射俊圖（高嵩谷の筆）猩々舞圖（高嵩溪信宜の筆）揚香搔虎圖（雅樂助岸良の筆）堀川夜討圖（容齋の筆）韓信出胯下圖（堤雪館の筆）一ッ家圖（一勇齋國芳の筆）豫讓刺衣圖（北嶺江貫の筆）四睡圖（冠岳の筆）鬼女圖（是眞の筆）等なり

、、、、、、淺草神社祭神は東照宮、土師眞仲知命、檜前濱成命、檜前武成命なり大祭は毎年三月十七十八の兩日なりしを明治五年より五月十七十八の二日に改められたり、例年祭典には柏板と稱する古式の舞を執行す、維新前は淺草の

総鎮守なりしを郷社となりて藏前通り以南の氏子町々は他の神社に分割されたり

老女辨天　仁王門外鐘樓の邊りに在り本尊は白髪の座像にて慈覺大師の作なり昔日辨天山の下にありし池はいつの頃にか埋もれて今は其形ちだに存せず

因果地藏　塩舐地藏とも云ふ仁王門外成田不動尊の表に在り信者は土器に盛りたる塩を供へ私は因果な者で厶るは云へり

久米平内　仁王門外に平内兵衛の堂あり像は大なる石にて仁王座禪の體相なりと云ふ平内兵衛の説は人口にも膾炙し諸雜誌にも載せたれは爰に記さず昔より此像に不思議の靈驗ありとてさま〳〵の祈願を爲したり祈願を爲すにはお文と稱し心に思ふとぞも細かに文に認め堅く封じて平内樣誰よりと記し是れを納めて祈願を籠め而して他人よ

納めたる文を御返事と云ふて受け願望の吉凶を判斷せしとは人の知る所なり昔し堂の向ひ側に寶井と呼ぶ茶見世あ

久米平内之像

りと供物を賣りながらお文の取次を爲し返事も此處より出したるより寶井と云はす文茶屋と呼びたり文を納むるときは初穂十二文を添へる習はしなり扨三日乃至七日を過ぎて返事を受けに行き芝の者なりと云へば淺草邊より納めたる文を返事に出し四ッ谷の者と云へば本所邊より納めたるを返事に出したりとぞ、一説には平内兵衛は武勇の士にて死後我惡業を減せん爲め已が像を石にて造り路傍に肆して衆人に蹈付られんとを願ひしに世人は蹈付るを文付ると聞僻めて文を納め吉凶を判斷する

とを爲りしは可笑し

六地藏の石燈籠　觀音堂西の方に在る六地藏の石燈籠は火袋に六體の地藏菩薩を刻したり元は花川戸町の路傍に在りて半は土中に埋れて見ゑしを去る廿五年此處に移したり近來此石燈籠に病の平癒を禱る者ありて線香の煙常に絶へすとなり

此外地内に在る蛭子神社、八幡社、被官稲荷、金龍山六十六佛堂、閻魔堂、寢釋迦堂、熊谷稲荷、錢塚辨天、淡島明神、韋駄天、西の宮稲荷、藥師堂、中田天滿宮等の由來は詳ならす

淺草名物と呼ばれたる仁王門外の歌仙茶屋、本堂の周圍に軒を並べし揚枝店、奥山の投扇興、今は面影もなく仲見世の金龍山淺草餅、雷れこし、今戸燒の鳩、飛だり跳たりの手遊僅に名殘を存せり

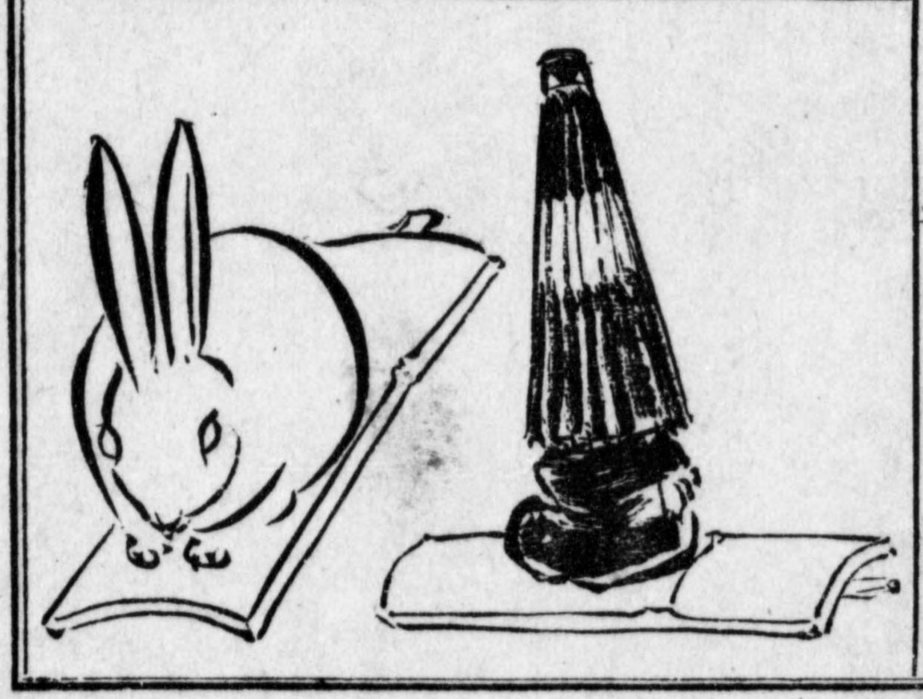
金龍山淺草餅　元祖は桔梗屋安兵衛享保年間百坪に足らぬ地を傳法院より借受けて店を開き桔梗屋の餡餅と呼びて賣出したり偶々上野輪王寺親王傳法院に御成の時安兵衛此餅を献じたるに餡餅にては面白からず能き名とらせんと仰せありて「金龍山淺草餅」の御染筆を賜りける是より其名世に知られて四時繁昌し名物の中に計へられたりと云ふ當主吉住安兵衛は九代目にて仲見世通り東側煉瓦家の内に店を構へ金龍山淺草餅と記したる大和障子を看版に客を迎へ昔しながらの菓子盆ろ、の無造作なるも面白し

雷おこし　雷門西側の角店永田亭と呼ぶ雜菓店に名殘をとゝめまた歳の市四萬六千日と人出の多き物日には何處よりか家臺見世を擔ひ來て商ふ者あり雷おこしは菊屋橋際の菓子屋虎屋が元祖なりと云ふ

今戸燒の鳩　仲見世の手遊屋にて賣る今戸燒の鳩を膳の上に置きて箸を取れば食に噎ぶことなしとて參詣人の求めたるが近來買人の少なくなりしとぞ此今戸燒の鳩を賣出したるは寛政年間

早稲田大學圖書館藏

のことにて始めは其形鵜の大きさなりしが次第に小形となりて遂に五六分のものに變化したるよしまた飛だり跳たりの人形賣は龜屋忠兵衛と云ふ者元祖にて享保年間八代將軍吉宗公葛西御成の途次淺草寺に詣でし時飛だり跳たりの人形に目を留められ二三個買上げよとの仰せに依て白銀二枚を賜ひしに忠兵衛價十八文を受けたしと町名主に申出て白銀を戻したりとか此事上聞に達し後ち忠兵衛に人形商ひ場として



仲見世觀音院前に一坪の地を賜りしと夜是より人形は名物となり淺草土產と呼ばれしが近來物日の外賣人の見えずなりけり

遊覽場　花屋敷は故と植木屋森田六三郎の拜領地にて嘉永年間始めて庭園を開き草木花卉を培養して遊覽させたり素とは廷園極めて廣濶く五區の植込地まで其構内なりしが明治十七年公園地經營の當時狹められて現今園内の坪數は二千七百坪なりと云ふ花屋敷は明治十九年より廿九年までの間に持主幾度か代りて今の所有主大瀧某なるよし園内には近來幾個の檻幾個の籠を並べ其内に珍らしき鳥獸を飼養しまた四季折々造人形を設けて婦人子供の目を喜ばせり、凌雲閣は十二階造りにて十階までは八角形總煉瓦造り十一二階は木製なり地磐の建坪は三十七坪五合高サ二百二十尺あり左れば天氣朗かなる日に登れば品海の勝景、秩父の連山、鴻の臺、羽田岬までも望むを得べし、

水族館は館内に幾十個の水槽を設けて珍らしき魚鼈を畜ひて觀覽に供し、珍世界は多くの珍器を集めて衆人の目を驚かせり、此外六區の諸興行物は一日に觀竭し難し

料理飲食店　此地の料理家飲食店は早朝より客を迎へ夜は十二時に至る其繁昌他に見ざる所なり料理家は常磐亭岡田、萬梅、一直、松島なるべし蕎麥屋は萬盛菴、汁粉家は梅園、松邑孰れも客の送迎に忙し、水茶屋は六區池の邊りに四軒、中島に一軒、四區に三四軒あり

淺草公園は斯の靈場の地域に就て經營せられ山内固有の風致を存し區域を定めて演藝觀覽物等の常設其他一般の營業を許し都下の賑ひを此處に集めたり左れば公園の商業者は四時の繁昌を目的に新奇を賣り巨利を罔せんとするもの枚擧に遑あらざるべし其中に動かぬ株となりて寢て居ても家内三四人の生活氣遣なき確實の商ひは山門に棲む鳩に豆を賣る者なりとよ

鳩に豆を賣る此株は七株の定めにて株持総て十四人あり店は三ヶ所四ヶ所と兩側に構へ居れども仁王門を入り兩側の角に店を張りたる者最も賣高多ければ名々三日目毎に代りて角店を張る約束なるよし其次第は日參月參りまたは緣日の度毎に參詣する人々は一人の店にて鳩鷄に施すも六人の賣手に恨みを買ては後生にならぬ供養にならぬとて五厘乃至一錢宛平等に七人の店にて買ふ故に利益も平等に得らるゝ譯なれども日曜大祭日等に幼少の男女を携へ五錢十錢の餌を時く上等客は後生も供養も頓着なく孰れも角見世に足を留める故に自然賣高を增し從て利益の多ければ斯る約束を設けたるなりとか其賣手は七ヶ所共に五十歳以上の婆々にて雨天には大黒傘を翳して日參の信者を待ち日毎に其賣上げの四分一を貰ふて生活する雇人なり、左れば豆

玄米の類は毎朝株主の家に抵りて壹升或は二升三升と人出を豫想して請取日没に賣上錢を携へ殘りの豆玄米あるときは添へて受渡しを爲す定めなりとぞ

株持が餌の仕人を爲すには深川の米揚場にて飜れ米または砂交りの掃寄せを買入れ大豆は味噌豆の中最下等のものを買集め十分水に浸して膨らせいつれも小形の土器に盛て一杯一厘宛に商ひ一日の儲高概ね左の如くなりと

金三錢　掃寄米一升の仕入代
金五錢　味噌豆一升の仕入代

以上金八錢の仕入にて其賣上代金左の如し

金參拾錢　掃寄米一升の賣上代
金四拾錢　味噌豆一升の賣上代

差引金六十二錢の利益にて此内より雇婆々に四分一即ち十五錢五厘を渡せは差引四十六錢五厘の純益にて一ケ月の合計金十三圓九十五錢なり但し一ケ月金五錢公園事務所へ地代として納むるものと知るべし

例年五月雨の頃及び暑中と師走此五ケ月は幾分か賣高に異同あれども一月十五十六十七の三日、春秋の彼岸、花七日、盆三日、天長節、新嘗祭、酉の市等には以上の賣上げに三倍し先づ一ケ年の純益百九十圓餘なりと云ふ現今の銀行株鐵道株の配當よりも多しまた株の賣買相場は百圓なりと云へり

之れも偏に大慈大悲の觀世音の利益なりしことは云ふまでもなし

雷門の圖解

雷門は淺草寺の總門にて風雷神を安置せり其造營は口繪に見す如く結構を盡し加ふるに金龍山の篆額は二品良尚法親王の御眞蹟なりとぞ（仁王門に掲げたる淺草寺の篆額もまた同じ）雷門は明和九年二月目黒行人坂より出火して江戸市内過半焦土となりしとき燒失して寛政七年に再建したり然るに慶應元年十二月田原町の出火

に烏有となりてより今に至るまで再興の沙汰無し

因に記す仁王門及ひ五重塔は明和九年二月雷門と共に燒失し寛政七年に再興ありて今に連綿たり、五重塔烏衾瓦の下に鬼面の瓦一枚を葺きたるは千代田城に對する鬼門除の爲なりと云ふ昔は正月七月の十六日に限り諸人に登るとを許せしが今は仁王門摟上に限る樣になりたり

淺草寺の御朱印

一當寺領五百石武藏國豊島郡淺草寺
此內別當分二百五十石但修理料共
一衆徒之跡濫凡僧不可居住同寺院之
明屋敷不可抱置事
附諸式法度以下可隨寺務之下知並
公役修造之節有令怠慢輩者忽可召
放坊領事
一山林竹木門前屋敷等如先觀諸役令
免除事
右之條々慶長十八年三月十三日先判旨
不可有相違者也　御朱印

傳法院　は淺草寺の本坊なり往古は觀音院と號し後ち知樂院と改稱せしが貞享二年十二月東叡山に屬し傳法心院と號を改めたり

淺草寺の支院　は三十四ヶ寺ありて內十二ヶ寺を衆徒と稱し二十二ヶ寺を寺僧と呼ぶ其次第は往古坊中百餘ヶ寺ありて孰れも妻帶なりしを忠海上人坊中の亂行を歎き妻子を脫却し淸僧を集めて天下泰平の祈禱を致度旨を願ひ許可を受けて後ち百餘ヶ寺三十四坊と爲し衆徒と寺僧の區別を爲したるなりと云ふ

衆徒の部

日音院　梅園院　醫王院　智光院
自性院　修善院　實相院　松壽院
本龍院　無動院　顯松院　金藏院

寺僧の部

妙音院　正智院　壽命院　妙德院
德應院　善龍院　遍照院　敎善院
覺善院　長壽院　正福院　圓乘院
觀智院　延命院　吉祥院　法善院

金剛院　誠心院　勝藏院　泉凌院

壽德院　泉藏院

今淺草寺地内に現在するは以上の中の僅に五ヶ寺なり。

雜事拾遺

淺草三社祭昔日の狀況　三社祭は丑卯巳未酉亥の隔年に執行せり其次第は十七日己の上刻社殿神輿の前にて淺草寺の僧侶神靈移の法樂唄散華あり式畢て三基の神輿を舁出し觀音堂の前本尊の方に向けて据ゑぬ右の方は濱成中は中知、左の方は武成なり此時本堂にて一山の衆僧唄散華本地供養あり此間三社の社殿にて中臣の秡を爲す神輿は東南の隅に莚を敷き輿臺に上ぼせ十八日の朝まで觀音堂に在り十七日の末の刻に拍板以下山谷より南馬道通りを經て仁王門を入る其順序は眞先に槍十筋次ぎに笛太皷を奏して本堂の西より東の方へ回り舞臺に上り拍板三人笛一人腰太皷二人大太皷一人にて雌雄の獅子を舞はす舞ひ畢て舞臺を去り仁王門より出て山の宿町に到る此神事に加はる者は孰れも舊家なるよし十八日には三基の神輿を本堂より舁出し藏前通りを渡御し淺草見附外より舟に舁き上ぼせ大川筋に漕出し花川戸町山の宿町の間に漕奇せ是より舁上げて隨神門より本社に入る當日荏原郡六鄕大森邊各村の獵師は舊例に依て神輿を守護す此獵師は往古宮戸川邊に住みたる者の子孫なりとて川筋を守護するとぞまた氏子町々より出す花車練物等の順序は左の如し

一番茅町一二丁目、二番瓦町天王町、三番旅籠町一二丁目、藏前片町、四番黑船町、三好町、五番並木町茶屋町、六番駒形町、七番諏訪町、八番三間町、九番田原町一二三丁目、十番東仲町、十一番西仲町、十二番南馬道町北馬道町、十三番材木町、十四番花川戸町、十五番山の宿町、十六番聖天町、十七番聖天横町、十八番金龍山瓦町、十九番山谷淺草町、廿番田町一二丁目以上卅一町なりと

三社祭の行列は左の如し

供養の町人　割竹　徒士

御堂番衆（鎗　挾箱）

供奉の町人　割竹　徒士

小結　青侍

御幣猿田彦　三本鉾純子幟

小結　青侍

獅子　拍板　御神馬　供奉顯松院住

職　社客　佐竹左京太夫より長柄二

十筋　御代官所　御門前町名主

但し供奉の町人、名主は皆麻上下

を着せりまた神輿の舁夫は花川戸

町山の宿町より出し槍持は並木町

駒形町より五人づゝ出す定めなる

よし

淺草の歳の市　二ッなき淺草市の賑

ひはまことに江戸の飾ものなり、〆蜀

山人の評せし如く大江戸の賑ひを此處

に集めたり東都歳事記に云ふ淺草市は

雷神門の左の方太神宮の攝社たる蛭子

の宮の市なり往古は十二月九十の兩日

なりしが後ち觀世音の緣日（十七十八

の兩日に）改めたるよしを記せり、安

永天明の頃より文化文政年間までは注

連飾、橙串柿、伊勢海老、雜器など賣

る者淺草寺地内は更なり南は淺草見附

外より藏前通り雷門まで兩側に見世を

張り北は砂利場より山の宿田町馬道ま

で桶類木鉢、臼杵などを竝べて往來を

狹め西は下谷廣德寺前通りより門跡前

田原町まで羽子板、破魔弓、宮類、草

物を商ふ者見世を連ね其混雜一方なら

ず婦女子などの往來思ひも寄らずと云

ひまた此時代に武家町人に至るまで火

事具を着て徘徊し吉原遊廓内の樓主は

俠壯に用心籠を擔はせ緣喜ものを買集

めて景氣好く運び馬道通りは一層の賑

ひなりしとあり寛政の初めより神田明

神社内、深川八幡社内、芝愛宕境内麹

町平河天神社内に歳の市開けて一年增

しに賑ひしも淺草市の繁昌に比ぶべく

もなし文化の初年より淺草市に木彫の

惠比壽大黑を商ふ者現れたゝが是れを

密かに盜取れば富貴になると云ひ人柄

の平生には似ず隙を狙ふて盜取りたりとは忌々しきことどもなり

維新後は年々衰微して文化文政時代の觀なしと雖も遉に昔の名殘を存し羽子板賣りは例年仁王門内外兩側に見世を張りて足を止むる婦如子雲の如く觀音堂の周圍には破魔弓、福俵、寶桝、入船など商ふ者處狹きまで見世を連ね桶小鉢、笊、餅網、橙、伊勢海老注連飾賣る者は四區五區の地を占めて孰れも緣喜を呼び西の方御供所界隈は宮師の占領地と定まり開連の大黑と米櫃大黑とは觀音堂前の假屋に出張し相變らず土製の小判を竝べて慾張連を待受け顏なるも可笑し公園事務所にては年々諸商人に貸渡す地代の收入三百圓以上なりと東都隨一の淺草市の名はまだ容易に動かされまじ

文化甲戌十二月蜀山人の口吟に

將之淺草市雪後道惡半途面歸

淺草市泥殘雪深。欲行引返半途心。

近來乘駕不乘輿。何必夜參觀世音。

淺草の市の鷄しめ縄を

荒神棚にかけろとやなく

淺草の市にひかれてあづさ弓

矢大臣門いづるびとむれ

淺茅ヶ原の一ッ家　往昔淺草邊は人家稀なる片里にて旅人の宿を求むるに所なく只淺茅ヶ原の一ッ家に姥の住みけるが常に旅人に宿かして石の枕を與へ眞夜中に旅人の頭を打碎き打殺して衣服を剝取り金錢を奪ひ死體を池に棄たるは九十九人なりとは古き書物にも見ゐてれ伽話の種となりしが固より信ずべきことにはあらず左に一ッ家の物語を記さん

或る旅人が淺茅ヶ原を行きけるに草刈る童が吹く笛の音最と涼しく殊に其音調は『日は暮て野には臥すとも宿かるな淺茅ヶ原の一ッ家のうち』と聞こゐければ訝しく思ひなから宿なき儘に姥が家を借りけるに旅の勞れをやすめよと石の枕を出しければ旅人は怪しく思ひて夜更に寢處を變

へて窺ひしに果して主人の姥忍び來てふしどの上に大石を落しける其れそろしさに旅人は膽を消して此家を逃げ出して野中の辻堂に隱れ暫しまどろむ中に一人の童子來りて云ふ樣我は淺草の觀音なり汝常に信心怠りなければ笛の音に姥が惡業を知らしめて一命を救ひ遣りたりと搔消す如く失せ給ひける旅人夢覺めて奇異の思ひを爲じ觀世音の靈驗著しきを愈〳〵尊みしとなん、其後ち觀世音は一ッ家の姥が惡業に罪をつくり地獄に墜るとを憐み給ひて稚兒と現じ姥が許に宿借り給ひしに姥はよきに饗應し打殺して衣服を剝取らんと喜び姥が娘美しき稚兒姿に迷ひ夜更に稚兒の臥戸に忍び行きける姥は斯ることゝは知らず例の如く石を落しけるに稚兒の姿は見えずして娘が石に打たれ淺ましき死を遂げたるに惡逆の姥も娘が無慘の死を歎き悲しみ池に身を投げて死せしとぞ

或る書に此事を辯じて云ふ一ッ家の姥が大惡無道にて旅人を殺害を爲し荷物金銀を奪取こと九百九十九人なりとか其千人目に至り觀世音姥が惡事を懲さんと稚兒に化し假りに娘が心を惑はし姥が手に娘を殺させ積惡の報ひを眼前に見せ給ひしは尊さ佛力なり左りながら姥が毒手に罹りたる九百九十九人の旅人が非業の死を致せしを觀世音は餘所に見て千人に至るとき我出て救はんと云はれしとは如何なものにや草刈となり歌の德を現はし旅人を救ひ給ひしは最と難有ことなれども九百九十九人を見殺にしたるは可笑し云々、また旅人の死骸を棄てたりと傳ふる姥ヶ池と云ふは猿若町に在りしと聞けど今は面影もなし

德川幕府の時代には何人も陰陽五行に惑溺せしことなるが其末世の弘化三年は恰も丙午に當りたる故江戸市中は元旦より用心々々の聲喧ましかりしに松

過ぎて日も經ぬ正月十五日正午の頃本郷丸山に住む一橋御守殿付勘定役阪本林平方より出火し佃島本所深川迄廻燒町數五百三十五町を焦土と爲し燒死人二百卅四人を出し明暦以來の大火なりと孰れも戰き慄れて上を下へと騷き立ち二月三月は空に過去り燒場の騷動も漸く治りて各々家作に取掛り昨日迄手斧聞きし町々に今日は青簾の夏座敷を見ると思ふ間もなく同年六月三日より霖雨晴間なく降りしきりて同十日頃より折々雲切れて日光を洩したれど快よく霽もせず同二十日頃よりは利根川荒川筋一面に增水して今日は大川筋の水量一丈八尺五寸增したり昨日戸田川の渡しは止まりたり六郷川も同樣なりなど噂せしが春の大火で丙午年の厄は拂ひたれど此上に出水などはあるまじと一向頓着せずして唯斯う降續かれては困ると曉くのみなりしが次第に大雨降り續き川々は增水して遂に二十七日の夜四ッ時頃武川羽生領の利根川堤防八十間程破壞して堺村高柳村以下數箇村濁流に押流され溺死人數多ありと代官所より馬喰町の郡代屋敷に早飛脚の着すると同時に葛飾郡樣現堂村より六里上の方の堤切れて本川股村を始めとして洪水數箇村に漲り家土藏流失少なからずとの急報ありたれば斯は大變と南北町奉行は與力同心等を率て出張したるに最早葛西より向島本所一圓千住吉原三の輪入谷阪本通りに浸水し孰れも床上三尺餘を浸し其騷動一方ならず向島に溺死二十人千住に三十人ありとの始末なるにぞ町奉行は向島本所深川吉原千住淺草と二手に分れて水防と救助に力を盡したり翌れば六月二十九日水害地は益々其量を增し三大橋も危く見えたれば町奉行は本所深川の士民に立退の用意然るべしと觸させければ各々山の手邊の親族を便り立退の準備を爲し或は橋の落ちぬ前にと老幼婦女を親類先に送るなど宛然火事場の如く夜に入りては愈々混雜を極めたるが同日の

夜九ッ時葛飾郡人民の力及ばずして遂に權現堂の堤防破壞して翌日の七ッ時頃葛飾郡内は勿論向島、本所、深川、千住、吉原、淺草、橋場、今戸、田町、馬道、觀音地内、田原町、門跡前、鳥越、三筋町、新堀端、また大通りは並木、駒形、藏前通り、淺草見附外迄一圓に浸水した一方は小塚原、箕の輪、入谷、山下通り、御成街道、筋違見附外迄又廣德寺前通りより三味線堀（佐竹邸には浸入せず）新し橋（現今の美倉橋）及び和泉橋、佐久間町、練塀町迄場所に依り床上八尺より五六尺を浸したるにゞ其騷動大方ならず淺草寺界隈の町民は觀音堂に難を避け念佛を唱へ居るうちに濁流は廻廊を浸したれば幾百の避難者は聲を限りに助けを呼び泣くもあり叫ぶもあり堂内の騷動斜ならず淺草寺にては立退の準備とりくなりしが頓て仁王門の樓上と五重塔に避難者を送りたり御目付は町奉行の請求に依て川船改役に命じ江戸市中より大小の船四百

十四艘を徵集し淺草見附外に集めて救助の爲め四方に乘り出し先づ淺草寺に避難の男女二千餘人を救ひたり町會所よりは二百三十艘の小舟を出して御用船と筆太に記したる高張提灯を推立て川中の關所へは御用船の幟と提灯を建てたるものは通行勝手次第差許すとの事にて市中を自由に漕廻らせたれば同晦日の朝七千二百餘人の男女を助て淺草見附に立戻り見附内の廣場に荒莚を敷き焚出しの握飯を與へ置き翌七月朔日の夕よりは一人に付一日銀一匁ッゝの宿泊料にて馬喰町其他市内百十三軒の旅人宿及び郡代屋敷寺院等に割付けたれども猶追〻救助人を增し同じく四日迄の調に壹萬四千人餘に達したりと云ふ實に前代未聞の洪水にてありたり扨此年の洪水は利根川筋の被害地は武州川俣、忍、行田、下總栗橋、中田、古河、關宿、木下、布佐、市川、取手鴻崎、滑川、佐原、十六島、銚子、川口等にて荒川筋は川越、戸田川、葛飾

醫書大學館藏版

葛西、隅田、江戸近在本所請地、押上、龜戸、小梅、本所、深川、千住、等なりと云ふまた霖雨は六月三日より七月十七日迄降り續き大消商人は生活に困しみ居たるに樺現堂の堤切れて江戸市内に押水の來ると聞き昨日迄壹兩に五斗三四舛の白米相場は騰貴に騰貴して四斗二三舛となり小賣は百文に付五合五夕と云ふ價ひなるにゞ愈々難儀して多くは粥を啜り其日を送りたるもありけり、其中にて心なき者は少しの晴間を見ては吉原土手へ水見物に出掛けたるより町奉行は其不實を憎み左の如く布告されたり

吉原日本堤に水見物に參る者多人數有之不埒至極の事に候親類共へ見舞に參り候儀は格別以後見物人は勿論猥りに往來に立留り候者は召捕の上急度吟味可致此旨町々へ無洩樣可觸知もの也

また此時の地口に「丙午寄せ來る水と異國船今日もふらんす明日もふらんす」

阪東札所　淺草草は阪東札所第十三番にして又江戸三十三ヶ所の第二十三番の札所たり江戸三十三ヶ所の札所と云ふは左の如し、

一番湯島圓滿寺、二番湯島天神社内、三番小石川圓成寺、四番駒込稱念寺、五番駒込長專寺、六番駒込清林寺、七番駒込光源寺、八番千駄木世尊寺、九番新堀養福寺、十番根津權現清水社内、十一番上野忍岡稲荷社内、十二番不忍辨天社内、十三番上野清水堂、十四番下谷正福院、十五番淺草新光明寺、十六番淺草正樹院、十七番淺草清水寺、十八番淺草天嶽院、十九番淺草日輪寺、二十番淺草九品院、廿一番淺草地中金藏院、廿二番淺草寺、廿三番淺草寺地中自性院、廿四番淺草砂利塲泉龍院、廿五番淺草駒形堂、廿六番本所回向院、廿七番御船藏前西光寺、廿八番深川本誓寺、廿九番深川靈嚴寺、卅番深川正覺寺、卅一番深川八幡社内、卅二

番深川增林寺、卅三番深川三十三間堂、

寛文七年江戸三十三番觀音の札所參り始りて寺町筋は賑ひしが何故か禁制となりたり當時の札所は左の如し

一番淺草寺、二番淺草駒形堂、三番淺草三十三間堂、四番淺草清水寺、五番下谷安樂寺、六番上野清水堂、七番湯島天神社内喜見院、八番駒込寺町清林寺、九番駒込淺嘉町定泉寺、十番駒込稱念寺、十一番小石川圓乘寺、十二番小石川傳通院、十三番牛込築土無量寺、十四番牛込築土成龍院、十五番牛込寺町行天寺、十六番市ヶ谷東圓寺、十七番四谷淨蓮寺、十八番四谷眞成院、十九番赤坂清岸寺、廿番西久保天德寺、廿一番芝增上寺、廿二番西久保順了寺、廿三番麻布新町稱念寺、廿四番三田古川龍翔寺、廿五番三田魚藍淨閑寺、廿六番三田齊海寺、廿七番伊皿子道往寺、廿八番同所一聲劍、廿九番高輪引接院、卅番高輪如來寺、卅一番二本榎黃梅院、卅二番二本榎光雲寺、卅三番目黑龍泉寺、

新撰札所は左の如し

一番淺草寺、二番姥ヶ池明王院、三番金龍山本龍院、四番淺草駒形堂、五番淺草龍寶寺、六番淺草日輪寺、七番淺草清水寺、八番下谷安樂寺、九番上野清水堂、十番谷中養福寺、十一番駒込清林寺、十二番駒込清念寺、十三番大塚護國寺、十四番高田金乘寺、十五番下戸塚觀音寺、十六番目白新長谷寺、十七番牛込千手院、十八番市ヶ谷光德寺、十九番四ッ谷眞輪寺、二十番千駄谷聖輪寺、廿一番青山敎覺院、廿二澁谷東福寺、二十三番澁谷長谷寺、二十四番魚藍淨閑寺、二十五番深川正源寺、二十六番深川三十三間堂、二十七番本所回向院二十八番、深川靈山寺、二十九番龜戸善龍寺、三十番龜戸普門院、三十一番柳島龍眼寺、三十二番押上

醫書大學館藏版

德正寺、三十三番押上全性寺、

淺草觀世音御由來記 完

醫書大學館藏版

○小包郵便規則

小包郵便料

量目 ＼ 里程	十里迄	百里迄	百里迄以上
二百匁迄	五錢	八錢	十六錢
四百匁迄	七錢	十二錢	二十四錢
六百匁迄	九錢	十六錢	三十二錢
八百匁迄	十一錢	二十錢	四十錢
一貫匁迄	十三錢	廿四錢	四十八錢
一貫壹百匁迄	十五錢	廿八錢	五十六錢
一貫五百匁迄	十七錢	卅二錢	六十四錢

○郵便局市外ニ送達スル分ハ左ノ料金ヲ納ムル事

一個目方六百匁迄貳錢　同一貫匁迄四錢

同一貫五百匁迄六錢

○小包郵便ノ目方寸法制限左ノ如シ

目方ハ一個　一貫五百匁迄　長サ曲尺二尺迄巾曲尺二尺迄　厚サ曲尺二尺迄

○電信規則摘要

○賴信紙ノ餘白ニ記載シタル發信人ノ住所氏名及歐文電報ノ住所氏名ハ總テ之レヲ語數ニ算入ス

○國內ヲ通スル語報料左ノ如シ　姓名共

一和文片假名　十五字以內金二十錢　五字以內ヲ加フル毎ニ金五錢

一歐文　五語以內金二十五錢　一語ヲ加フル毎ニ金五錢

一市內ニ發着スル電報料左ノ如シ

一和文片假名　十五字以內金十錢　五字以內ヲ加フル毎ニ金三錢

一歐文　五語以內金十五錢　一語ヲ加フル毎ニ金三錢

○所得税法（法律第十七号
明治三十二年二月十日）

○戸主又ハ同居人ノ所得（利子、俸給、手當、恩給、ノ類及商業ノ純益金ヲ云フ）ニテ一ケ年三百圓以上有スルモノハ左ノ割合ニ依リ納税スベシ

○所得金高三万圓以上　千分ノ四十五
○同　二万圓以上　千分ノ四十
○同　一万五千圓以上千分ノ三十五
○同　一万圓以上　千分ノ三十
○同　五千圓以上　千分ノ二十五
○同　三千圓以上　千分ノ二十
○同　二千圓以上　千分ノ十七
○同　千圓以上　千分ノ十五
○同　五百圓以上　千分ノ十二
○同　三百圓以上　千分ノ十

○左ニ掲クル所得ニハ所得税ヲ課セズ
一軍人從軍中ニ係ル俸給二扶助料及傷痍病者ノ恩給三旅費學資金及法定扶養料四營利ヲ目的トセザル法人ノ所得五營利ノ事業ニ屬セザル一時ノ所得

○附　則

○此法律ハ明治三十二年分所得税ヨリ之ヲ適用ス

○明治二十年勅令第五號所得税ハ明治三十一年分所得税限リ廢止ス

都市名所案内

○東京名所ハ毎擧ニ違アラズト雖モ其一二ヲ擧レバ●上野公園●隅田川●飛鳥山●九段靖國神社●愛宕山●淺草公園●龜井戸天神同臥龍梅及江東梅●芝公園及増上寺●王子●瀧ノ川●品川御殿山●染井●目黒不動尊●高輪泉岳寺●淺草觀音●同門跡●道灌山●池上本門寺●川崎大師●湯嶋天神●神田明神●待乳山●御所外二重橋●深川八幡●麹町三王權現●神田御茶ノ水●角筈十二社●赤坂氷川明神●本所羅漢寺●蒲田梅林●品川海晏寺同天王社●小金井●鴻ノ臺

◎横濱ハ本邦第一ノ貿易場ニテ商業ノ頻繁ナル大坂ト比肩スベシ各國商館等壯麗目ヲ奮フノ感アリ野毛山公園等市内ノ名勝モ亦少カラズ又市内各地ニ往來スル瀛船出入日夜間斷ナシ

◎鎌倉ハ●鶴ヶ岡八幡宮●鎌倉宮●建長寺●長谷觀音●大佛等名所遊覽地最モ多シ◎藤澤ハ江ノ嶋ニ遊行スルニ至便ノ地ナリ◎岡府津ハ小田原ヘ一里半而根湯本ヘ三里共ニ鐵道馬車ノ便アリ◎興津ハ有

名ノ清見寺アリ三保ノ松原等ヲ足下ニ見ルベシ

◎名古屋ハ東西両京ノ中央ニアリテ繁榮三都ニ亞ク名所古跡モ亦少カラズ●名古屋城小牧山ノ公園●豐國神社●本願寺別院●大須觀音等ニテ又熱田神社●清正神社●白鳥ノ御陵モ同市ニ程遠カラズ

◎京都ハ清水寺●祇園●知恩院●八坂神社●圓山●東本願寺●西本願寺●大佛耳塚●東福寺●東西大谷●南禪寺●蹤水工事隧道●黒谷●平神社●高尾●三十三間堂●嵐山●東寺●大德寺●金閣寺●銀閣寺●慶澤大極殿●御苑●修學院●叡山相國寺●六角堂●空也堂●伏見稲荷社●泉岳寺●建仁寺●加茂神社●鞍馬山●妙心寺●梅ノ尾●槇ノ尾●高尾●愛宕山●月輪寺●差蛾野●清凉寺●大覺寺●嵯澤ノ池●天龍寺●黄檗山●宇治平等院●禁裏御所●二條離宮

◎大坂ハ本邦第一ノ商工業地タル事普ク人ノ知ル所ナルガ名所古跡亦タ少ナカラザレドモ今其二三ヲ擧グレバ●大坂城趾●生魂神社●天滿天神●中ノ嶋豐國神社

●道頓堀●櫻ノ宮●四天王寺●本願寺●天保山●服部天神●玉造ノ森●鐵工所●紡績會社●製紙會社●大融寺●座摩神社●阿彌陀ヶ池●高津神社●桃山●茶臼山●阿部野社●一心寺●住吉神社●又堺ニハ大濱公園●妙國寺●開口神社●南宗寺●利久墓●大鳥神社●四條畷神社●箕面山等アリ

▲陸軍々醫總監林紀大先生御傳方

▲複方克快丸は其効克快丸に三倍す

▲五年十年梅毒かつけ長病貳劑服せば全快す

妹「モシ兄さん淺草へいらつしやつたら並木の順天堂合資會社で複方克快丸を一劑かうてくださいモウ全快しましたが根治するように」

「ッウシテにいさん

も又かつけがれこらぬうち一劑かうていらつしやい「りうまちすトかつけに複方克快丸はおどろくほどきいます兄「ヨシヨシそれでは二劑かうてわけてふくそう

▲驚くべき
▲リウマチス
▲根切大發明

◉りうまちす病新藥發見……其藥劑原品はメキシコ國より輸入する藥劑にして發明者は有名なる大醫陸軍々醫總監林紀大先生にして其藥劑を配合したる丸劑はりうまちす病の根治全快するのみならず黴毒かつけの長病忽ち全快せしむ藥名を複方克快丸と稱す發明以來此藥劑を用ひ全快せし者實に數十万人に達す實に天下の名劑なり眞に大醫の發明なり

◉りうまちす
黴毒かつけ三病は皆長病又難病にして數年醫療に手を盡し治せざるも此一大發明新藥は二三年の輕症は半劑五六年は一劑十年以上と雖も貳劑服せば全快すべし

▲半劑服し大効なければ
▲決して服用すべからず

定價（半劑參拾五錢　壹劑七拾五錢
貳劑壹圓五拾錢　壹劑七拾五錢
●郵券代用壹割增

●●●●●東京市淺草區なみ木町大通り●●●●●
▲順天堂合資會社本店▲

▲警視總監の認許を
▲蒙むり

明治廿七年八月
本劑參千貳百瓶

警視廳へ獻納し東京府管内各警察署へ御下附の上盡く警察官吏へ授與せられし所なり

（効能概略）

●はやりめ●ただれめ●ちめ●めぱし●つきめ●やみめ●のぼせめ●かすみめ●眼病養生法能書にくわし御賢覽ありたし

●俗に雲切めぐすりと稱す

但し風閊そこひ、に用ふべからず

日本全國至る所の藥舗にあり

小瓶十錢　中瓶廿錢　大瓶五十錢　特製壹圓

ヒゲッウ新めぐすり

輕症眼病壹瓶にて全快す

東京市淺草區なみ木町大通り
大阪市高麗橋松屋町通南入る

順天堂合資會社

▲本劑は獨乙大學ベーノ、ノ大發明にして醫學校
▲一等教諭病院長眞部於菟也先
▲生實驗の方劑にしてインフルエンザ引
▲風、劇烈の前年獨乙國に於て當時本劑發明の大効により全快

●かぜは萬病ノ元
●びつくり丸を服
●し忽ち全快す

▲の榮を得たる實に六百余萬人、感染の
▲害を免かれたる八百廿余萬人大醫クノ
▲ル博士は獨乙全國の大歡迎を受け名
▲聲四海に赫々たり本劑を服せば卅分間に躰内の邪熱を發し二日分にて全快すべし

參服入 金五錢
七服入 金拾錢
十五服入 金廿錢
廿三服入 金卅錢

東京市淺草區なみき町大通り
順天堂合資會社本支店
大阪東區高麗橋筋松屋町通り南入る

驚くべき日本の大發明

●りうまちす病新藥發見　病理學の進歩に從ひ屢々新藥の發明あるは我々人民貴重の生命をして長壽健躰に安居せしむる實に喜ひ限りなき聖代也

りうまちす病新藥其藥劑原品は墨西其國より輸入する藥劑にして發明者は有名なる大醫陸軍々總監林紀先生にして其藥劑を配合したる丸劑は僂麻質斯病を根治全快せしむる耳ならず瘡毒かつけ病等も忽ち全快せしむ發明以來此藥劑を用ひて全快せ　患者實に十万人以上に達したりりうまちす瘡毒かつけ參病は皆長病であります又難病でありまもが此發明新藥は一二年位の輕症患者は半劑八日分よして全快す五六年は一劑十四日分十年以上は二劑服すれば必らず全快す

此新藥は根治療法にして後患なき發明藥ゆゑ殊に外國人の賞用するにより外人居留地に販賣店あり海外輸出店あり

藥名は
●●●
克快丸といふ此發明新藥を購求しりうまちす瘡毒かつけの長病を根治全快せしめんとせば御最寄の取次店にて御求奉願候

半劑金卅五錢、壹劑金六拾錢、送料貳錢宛

登錄商標

天賞湯

てんしようたう

海軍大軍醫石神六郎先生の發明せられたる天賞湯ハ婦人ちの道子宮病に用ひ其
して其根本たる病源を治し身躰をあたゝめ、ちのめぐりをよくし子宮病其他
婦人病を全治するは此新藥大賞湯に限る又產前產後に又月やく不順に皆用ひて
全治せざるはなし

又懷姙中の御婦人は常に此天賞湯を用ふれば健全無病の孫子を產ま又以て其効
能偉大なりとす本舗數千人實驗の結果により廣報する
處なり產前產後ちの道一切、ながち、しらち、つわり
づゝう、めまひ、たちくらみ、きふさき、いきゝれ、
ねあせ、むねはらいたみ等によし

定價	
一貼	金五錢
三貼	金拾五錢
七貼	金三拾錢

大坂府醫學校一等教諭
醫學士 眞部於菟也先生傳方

子そだてぐすり

登錄商標

電氣燈

小兒五疳驚風ねつ一切の良劑

○百日咳○はきくだしはらいたみ○よなき○引風又小兒たいないの毒をくだし
氣分せい〳〵たる學功丸あり

學効丸

定價表	
金五錢	
金十錢	
金廿錢	
金卅錢	
金五十錢	
金壹圓	

のむとすぐきく、つうじやをり最近の發明にして、躰内の百毒をさる、此劑朝夕一服づゝ、常に服用せば、凡ろ人身躰の疾病を未發に防ぎ、心神爽快ならしむべし、

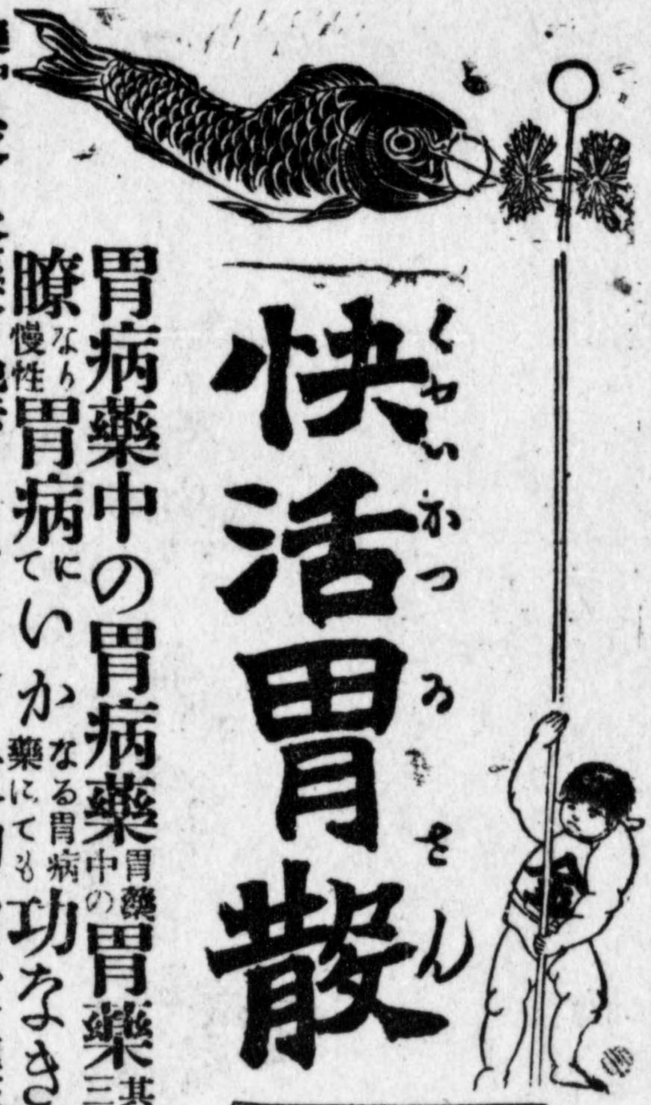
（月やく不順に最もよろし）

登錄商標

どぶ丸

○りんびよう○せうかち○根切の良藥にして○のぼせ引さげ○しつ毒たい毒○くびぐりぐ○ばい毒がんがさようばい瘡○かはいろ青く氣ふさぎ○ようきかわりめに氣分わしき忽ち全快す其功藥名に背かず

ピックリ丸定價	
二日分	金五錢
四日半	金拾錢
中服	金廿錢
大服	金三十錢
箱入	金五十錢
箱入	金壹圓



快活胃散

試用三服	金九錢
三日分入	金廿五錢
七日分入	金六拾錢

胃病藥中の胃病藥胃藥中の胃藥其實効は僅かに三服を試用せば明瞭慢性なり胃病ていなる胃病藥にても功なきとき快活胃散は日分を試み他の胃病藥を撰みいづれか大功あるかを僅かに一日分試みらるれば明瞭なり快活胃散一日分を試み終らざるに心氣快全として食餌進み一周間服用せば慢性胃病も病苦を忘るる其藥價は高價なれども長病忽ち健康に復せば却て安價の良藥と思わる

りうまちす塗擦剤

消毒鎮痛チンキ

●定價 小瓶十錢 中瓶廿錢 試用五錢

◉りうまちを痛風ふうしつ風毒、うちみ

◉手足腰ふしぶし痛み、又ははれ◉かた腰せすじむねいたみ、又ははれ◉くびすじはれ、又痛み、くじき◉すじはれ痛むによし

さふらん散

二日分 金五錢
四日分 金十錢

◉婦人ちの道、產前產後、月やく不順の粉藥にして最も便利なり

ナヲリ膏

金三錢
金五錢
金拾錢

きず一切、ろうぢく、やけど、きりきず かすりきず、できもの、一切によし

藥名護身丹

金鶏勳章

金五錢
金十錢
金廿錢

コレラ、赤痢、かくらん、氣つけ、毒けし、むねはら痛み、食傷、くだりはら、はらしぶり痛み、旅行には懷中すべき良藥なり

十年不治の胃病五週間にて根治す

胃根治丸

本劑は胃病一切專門藥にして如何なる慢性胃病と雖も相治全快す輕症は七日分四拾五錢重症十四日分八拾五錢乃至廿一日分壹圓廿錢如何なる長病慢性症と雖も卅五日分貳圓連服すれば根治全快す

本劑大効あるを賞し妙に根治すると云ふ禮狀を贈られしは岩代大沼郡沼澤村井章政吾君

たんをきりせきを止め血液を增し身躰を健全にす

快痢飴

（快痢飴主治）

たんせき 百日咳 赤痢病 はき下し 溜飲 貧血病 消化不良 胃病一切 慢性腸加答兒 急性腸加答兒 腸病一切 快痢飴にて全快す

二日分 金拾錢
七日分 金卅錢
十五日分金六拾錢

東京市淺草區なみ木町廿二番地
本舗 開運堂藥房

驚くべき腦病神經病最新劑發見

大賞賛

錦腦丸は神經腦病專門藥にして神經腦病如何なる長病慢性症と雖も根治全快せしむ

發見以來錦腦丸を服せし患者にして全快せざる者一人もなき古今稀なる良劑なり

官吏學生相場師の如き平素神經腦を過勞する人常に錦腦丸を持藥として服すれば生涯神經病腦病を患ふることなく無病健躰となること疑なし

藥價 七日分 金五拾錢 卅一日分金貳圓
十五日分金壹圓六十三日分金四圓

本舗 東京市淺草區なみ木町廿二番地
開運堂藥房

明治三十四年十二月十七日印刷
明治三十四年十二月廿四日發行

定價 金拾貳錢五厘

著者 神奈川縣平民 植木彌一 東京市本所區横綱町二丁目七番地寄留

發行者 東京府平民 植木桑次郎 東京市淺草區並木町二十二番地

印刷者 愛媛縣士族 大野潔士 東京市淺草區西仲町卜番地拾一番地寄留

印刷所 順天堂合資會社附屬 印刷所 東京市淺草區西仲町拾番地拾一番地

不許複製

販賣所

東京市淺草區並木町二十二番地
醫書大學館本部

大阪東區高麗橋筋松尾町通南入
醫書大學館支部

富山市東四十物町書籍店
中田清兵衛

羽前國鶴岡五日町書店
小池藤治郎

221
91

221
91

016807－000－1

特18－482

浅草観世音由来記

植木　弥一／著

M34．12
ABE－0012

特
48

1950
5